教員の資質・能力向上への取組み

～平成16年度教職10年目研修の事後アンケート結果から～

I はじめに

II 小・中学校

III 県立学校

IV まとめ

○ 資料

教職10年目研修(小・中学校)事後アンケート様式Ⅰ(校長用)

教職10年目研修(小・中学校)事後アンケート様式Ⅱ(研修教員用)

教職10年目研修(県立学校)事後アンケート様式Ⅰ(校長用)

教職10年目研修(県立学校)事後アンケート様式Ⅱ(研修教員用)

平成17年11月

栃木県総合教育センター

I はじめに

10年経験者研修法制化の経緯

「あらゆる教育論は、突き詰めていけば教師論に行き着く」といわれるように、学校教育の成否は、その直接の担い手である教員の資質・能力に負うところが大きい。そのため、教育改革を推進する上でも、教員の資質・能力の向上は極めて重要な課題の一つとなっている。特に、現行の学習指導要領の下、児童生徒に基礎・基本を確実に身に付け、自ら学び自ら考える力を育成し、確かな学力の向上を図るとともに、心の教育の充実を図るためには、教員の指導力の向上がこれまで以上に求められている。

このような状況の下、平成14年2月21日の中央教育審議会「今後の教員免許制度の在り方について」（答申）において、「教員が中堅段階に進んでいく期間の中でも、特に重要な時期である教職経験10年を経過した教員に対し、勤務成績の評定結果や研修実績等に基づく教員のニーズ等に応じた研修を各任命権者が行うものとする。」ことが示され、教職10年を経過した教員に対する新たな研修の構築が提言された。これを受けて、10年経験者研修が教育公務員特例法により制度化され、平成15年度から各都道府県において実施されることになった。この研修の最大の特徴は、当該教員（以下「研修教員」という）の能力、適性等の評価に基づく研修計画書が作成され、個に応じた研修を行うことが義務付けられたところにある。特に、評価や研修計画の作成に当たっては、研修教員自身に自己評価を行わせ、それを聴取することや、研修教員の意見や希望を参考として聴取することは、研修教員自身に自らの課題や適性、得意分野等を再認識させ、研修意欲を喚起するとともに、研修内容をより適切なものとするうえで、望ましいとされた。

本県における教職10年目研修

本県の教職10年目研修は、公立小学校・中学校及び県立学校の教職経験10年目に当たる教員に対し、個々の教員の能力、適性等に応じて、学習指導、児童・生徒指導等に関して、広い視野に立った豊かな識見、確かな理論、優れた実践的指導力等を養うことを目的として実施されている。本県では、教職10年目研修は従来から実施されていたが、法制化されたことに伴い、特に次の三点を柱として研修が再構築された。

- 1 確かな学力の向上を図る学習指導の充実
- 2 心の教育を踏まえた児童・生徒指導の推進
- 3 地域との連携を図った教育の推進

研修日数も大幅に延長され、総合教育センター及び校内等で合計30日間となった。研修効果を高め、研修教員の資質・能力の向上を一層図るために、総合教育センター等における研修と校内等における研修とを密接に関連させながら実施されている。

本県における教職経験者研修は、初任者研修、教職5年目研修、教職10年目研修、教職20年目研修となっている。教員のライフステージに応じた研修を考えると、教職経験の各段階に必要な資質・能力の育成が求められることはいうまでもない。特に、初任者段階から中堅教員段階に進んでいく教職経験10年目での資質・能力の向上は、極めて重要なことであり、教職10年目研修の果たす役割は大きいと考える。

本アンケート調査のねらい

このアンケート調査は、以上のことを踏まえて、次の三点について、本研修終了後、一定期間を経過した後の研修教員の状況を、当該教員及び校長を通して把握することにより、総合教育センター及び校内等における研修カリキュラムの有効性をチェックし、教職10年目研修の改善・充実を図ることを目的として行ったものである。

- ① 本研修を終了した研修教員が、個々の課題に応じて実施した研修の成果を、現在の指導に生かし、指導力が向上しているか。
- ② 本研修の特徴の一つである研修の事前及び事後の評価が、有効に活用されているか。
- ③ 本研修の実施が、校内の他の教職員にどのような影響を及ぼしているか。

なお、このアンケートは、校長、研修教員ともに平成17年度（本研修の翌年度）に異動のなかった者を対象に、平成17年6月から7月にかけて調査したものである。小・中学校では、校長83名、研修教員90名（全研修教員の47.8%）、県立学校では、校長32名、研修教員50名（全研修教員の50.5%）を調査対象とした。また、宇都宮市立学校の教員は、中核市が行う研修の対象者であるため、本調査には含まれていない。

Ⅱ 小・中学校

- 1 研修教員が研修終了後、研修の成果をその後の指導に生かしているかについて、ア～ウの項目のA～Dの当てはまるものに○をつけ、□内に具体的な内容をお書きください。(回答者：校長・研修教員)

ア 学習指導力の向上

校長

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	44	38	1	0	83
%	53.0	45.8	1.2	0	100

(2) 主な自由記述 (○は肯定的意見、▲は否定的意見、以下同様)

- これまでの課題研究を継続させ、自分の研究テーマとして日々実践している。
- 教科別分科会で学んだ指導法を生かし、教材研究に積極的に取り組み、授業改善に努めている。
- 公開授業や授業研究会での反省を生かし、指導法の改善に努めている。
- 研修で学んだ「指導に生かす評価」を普段の授業でも意識的に取り入れ、指導と評価の一体化に努めている。
- 一人一人の子どもの実態を把握したり、それに応じた教材・教具を工夫したりして、個に応じた指導を心がけている。
- ビデオによる授業研究の成果を生かし、楽しい、わかる授業を目指すようになった。
- ▲授業においても、生徒指導を配慮することが望まれる。

研修教員

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	32	57	1	0	90
%	35.6	63.3	1.1	0	100

(2) 主な自由記述

- 課題研究の取り組みを生かし、基礎・基本の定着や指導と評価の一体化等を考えながら、生徒の学力向上に努めている。
- 課題研究の成果を踏まえて新たなテーマを設定し、学期ごとに単元を決めて取り組んでいる。
- 教材研究の大切さを再認識した。教材・教具や指導法の工夫をして、わかる授業を実践している。
- 公開授業Aのビデオ視聴や授業研究会で他の教員から学んだ授業展開のアイデア等を、日々の授業に生かしている。
- 教科別分科会での他の先生方との協議から、子どもの意欲を喚起する大切さを学び、興味・関心を引く教材や導入を工夫するようになった。
- 児童による授業評価の結果から、発問や板書を工夫する大切さを再認識し、研修終了後も意識して実践している。
- 自分の授業がマンネリ化していることに気づき、工夫を凝らした授業展開を心がけるようになった。
- ▲情緒障害児への対応に追われ、学習指導の充実までには至っていない。

校長、研修教員の回答ともに、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると100%近くになった。

総合教育センターにおける研修では、研修教員が研究テーマを設定して進めた課題研究についての記述が数多くみられた。これまでの課題研究の取り組みを生かして、継続して学力向上に努めたり、新たに研究テーマを設定して授業を実践したりしている。教科別分科会の研究協議等で学んだ指導法や児童生徒による授業評価を生かして、授業を展開しているという記述も多かった。

校内研修では、公開授業や授業研究会での他の教員からのアドバイス等が、自分の授業を見つめ直し、教材研究を積極的に進めるきっかけとなって、授業改善につながったという記述もみられた。

イ 児童・生徒指導力の向上

校長

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	33	48	2	0	83
%	39.8	57.8	2.4	0	100

(2) 主な自由記述

- 子どもを多面的にとらえるようになり、今まで以上に生徒指導に取り組もうとする意欲が高まった。
- 問題行動の早期発見、早期対応ができるようになってきている。
- 子ども一人一人の理解を心がけ、個に応じた適切な対応ができるようになってきている。
- 面談や子どもとのふれあいを通して、児童との信頼関係を築いている。
- 保護者との連絡を密にとるなど、家庭の状況を十分把握して生徒指導にあたっている。
- 子どものよさを積極的に認め、子どもを生かす指導を心がけている。
- 子どもの言動の中に、問題行動等のサインを感じるとれるようになってきている。
- ▲生徒理解と生徒への対応能力の向上が更に求められる。
- ▲児童を掌握し、状況に応じた児童指導ができるようになっていない。

研修教員

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	13	70	7	0	90
%	14.4	77.8	7.8	0	100

(2) 主な自由記述

- いじめや不登校等への対応について学んだことで、早期発見と早期対応に心がけるようになった。
- 子どもの変化を敏感に感じ取れるように努め、子ども、保護者との信頼関係づくりに取り組んでいる。
- ロールプレイング等の演習や事例研究会により、一人一人の生徒を大切にしたい個に応じた指導ができるようになったと思う。
- 教育事務所における異校種の先生方とのグループ協議は、発達段階による指導・支援のイメージが広がって参考になった。
- これまで対症療法的な対応が多かったが、児童一人一人とのふれあいを大切にしたい、予防的な対応に力を入れるようになった。
- 教職員間の連携を密にして、共通理解を図りながら、組織的に対応していくことの大切さを学んだ。
- 校内研修での事例研究により、生徒の見方や接し方に幅がもてるようになった。
- ▲研修だけでは生徒指導力は身に付かない。毎日の学校生活の中で生徒と接していきながら、日々研鑽を積んでいきたいと思う。
- ▲不登校傾向の子どもや、自閉症等の軽度発達障害をもつ子どもへの対応の仕方について、具体的、専門的な研修を受けたい。

校長の回答は、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると97.6%であり、研修教員の回答は92.2%だった。

校長、研修教員ともに、児童・生徒指導についての講話やロールプレイングの演習等から、一人一人の児童生徒理解の大切さを学び、児童・生徒指導力の向上を実感している様子がうかがえた。

校長の回答では、研修教員の児童生徒や保護者への対応の様子から、児童生徒の見方が多面的になったり、保護者との連携を図るようになってきたなど、適切に対応しているという記述が多かった。

研修教員の回答の中には、教育事務所で行った小・中・県立学校の研修教員との研究協議が、発達段階を踏まえた児童・生徒指導を進める上で大変有効な研修だったという記述が多かった。また、不登校傾向や軽度発達障害等の多様な児童・生徒指導上の問題に対応するために、児童・生徒指導力を一層向上させたいと願う記述もあった。

ウ 学級経営力の向上

校長

(1) 集計結果

(無回答：4人)

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	26	47	6	0	79
%	32.9	59.5	7.6	0	100

(2) 主な自由記述

- 日記指導や観察等により、生徒一人一人を理解し、個性や能力を生かした学級経営に取り組んでいる。
- 教育相談や好ましい人間関係づくりを積極的に行い、居がいのある学級経営に努めている。
- 児童の主体性を生かし、他の学級や教科担任と連携を図りながら、学級経営を行っている。
- 学校行事における個人指導と集団指導の技術を、学級経営に生かしている。
- 学級通信や家庭訪問等により保護者との連絡を密にとりながら、子ども理解に努めている。
- ▲学級事務の的確な処理や教室等の環境整備については、さらに努力する必要がある。
- ▲研修で得た理論を、今後、着実に実践に結び付けてほしい。
- ▲配慮を要する生徒への指導が不十分である。

研修教員

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	14	64	12	0	90
%	15.6	71.1	13.3	0	100

(2) 主な自由記述

- 生徒の理解に努め、居がいのある学級づくりを実践している。
- どのようにリーダーを育て、活動を盛り上げて学級を成長させていくかを常に考え、学級での話し合いや活動を行っている。
- 研修での先輩教員による実践発表が心に残っている。先輩教員の姿勢や人間的な魅力にひかれ、自分自身も明るく前向きに子どもと向き合うようにしている。
- 構成的グループエンカウンターで学んだことをもとに、望ましい学級集団づくりに取り組んでいる。
- 子どもと話し合っつった学級目標の実現に向けて、学級経営を進めている。
- 軽度発達障害の児童への対応の在り方を考えながら、学級経営を行っている。
- ▲初めて特殊学級の担任になったので、これから専門性を身に付け、努力していきたい。
- ▲日頃の忙しさのあまり、一人一人の生徒を大切に学級経営ができていない。

校長の回答は、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると92.4%であり、研修教員の回答は86.7%だった。

校長の回答からは、研修教員が、児童生徒一人一人に目を向けた学級経営に取り組み、好ましい人間関係づくりに努めていることがわかった。学級担任である研修教員が、日記指導等の様々な方法で児童生徒一人一人のよさや可能性をとらえたり、修学旅行や合唱コンクール等の学校行事で学級の所属感を高める指導をしたりして、秩序ある学級経営を進めているという記述が多かった。しかし、学級事務や教室等の環境整備、児童生徒への接し方について、今後努力する必要があるという記述もみられた。

研修教員の回答には、構成的グループエンカウンターの実践や事例研究会が大変役立ったという記述が多かった。また、「先輩教員による学級経営の実践発表」を通して学んだ学級活動での様々な工夫、教育に対する姿勢や人間的な魅力を、現在の学級経営の参考にしているという記述も数多くみられた。

エ その他

校長

主な自由記述

- 以前にも増して、学級経営、学習指導、生徒指導それぞれに優れた力を発揮している。
- 社会性が身に付き、ひとまわり大きく成長したように見える。
- 中堅意識がもてるようになり、責任感、自立心が一層高まったように思われる。
- 各業務に積極的に取り組み、組織の一員としての自覚もさらに強くなってきた。
- 各方面で前向きに取り組み、リーダーとしてがんばっている。
- 子どもや保護者からの信頼が増し、積極的に学級経営に当たっている。
- ▲センターでの研修は主として夏休みであり、ほとんど休暇が取れない。15日間の校内研修も、校務分掌、担任業務や部活動の指導等の通常業務にプラスしての研修であり、研修教員にとっては負担が大きい。

研修教員

主な自由記述

- 同期の仲間と研修する中で、共感したり奮起させられたりした。
- 社会体験等研修や異校種体験研修で研修先と連絡をとることが多かったので、外部との交渉の仕方など大変勉強になった。
- 自信にあふれ慢心しているこの時期に、初心にかえることの大切さを感じる事ができた。
- 幅広い体験を積むことができた。そこで学んだことを、生徒への接し方や保護者への対応など、実践に生かしていると思う。
- 公務員としての自覚や、優れた社会人でなければならないという意識が強くなってきた。
- 職員室でのポジションからも、積極的に学校経営に参画しようとするようになった。
- 様々な研修を通して、地域での学校の役割や外部から見た学校の姿を意識するようになった。

校長、研修教員ともに、学習指導、児童・生徒指導、学級経営以外にも、様々な成果があがったという記述が多かった。

校長の回答からは、研修教員が、学習指導や児童・生徒指導等の面で優れた力を発揮して、担当業務に意欲的に取り組むようになり、児童生徒や保護者からの信頼感も増したという記述が多かった。本研修をきっかけに、研修教員の資質・能力の向上が図られたということがわかった。また、組織の中でのミドルリーダーとしての意識が高まっているという記述もあった。

研修教員の回答には、同期の仲間と共に活動したり議論したりすることによって、互いに刺激し合えたという記述が数多くみられた。さらに、10年という節目に、これまでの教員生活を振り返り、初心にかえることの大切さに気付いたという記述もあった。また、様々な研修を通して幅広い体験を積んだことによって、社会性や責任感、自立心が高まるとともに、学校経営への参画意識が芽生えたとする記述もみられた。

- 2 平成16年度の校内研修では、どのような研修が有効でしたか。(回答者：校長)
平成16年度の校内研修では、どのような研修が役立ちましたか。(回答者：研修教員)

校長

主な自由記述

- ・公開授業や授業研究会は、研修教員が授業を見直す意味で大変有効であった。
- ・小・中連携の一環として、校区内の学校の教職員に公開授業を参観していただいたので、よい授業研究会が実施できた。
- ・授業研究会での意見交換は、すべての教員に刺激となり、自主研修への意識づけができた。
- ・教育相談に関する研修は、即実践に生かせる内容であったため、役に立った。
- ・生徒指導の事例研究は、問題行動への対応の在り方がわかり、有効であった。
- ・評価に関する研修は、学期末の評価に役に立った。
- ・各教科主任による教科指導に関する研修は、よりよい授業を展開する上で役に立っている。
- ・学級に高機能自閉症の児童が在籍していたため、保護者への対応の仕方も含め専門家から指導を受けたことが、大変参考になった。
- ・様々な研修を研修教員自身で準備し実践することは、教員の「生きる力」の育成のためには有効であると思う。

研修教員

主な自由記述

- ・公開授業や授業研究会での多くの先生方からの指導・助言が、教材研究や授業の進め方に役立った。
- ・他の先生方の授業を参観して、具体的な指導法や子どもに対する支援等について学ぶことができた。
- ・管理職や先輩の先生方の講話をはじめ、たくさんのアドバイスが自分の財産になった。
- ・学校課題のテーマと課題研究を関連づけて進めたので、大変有意義だった。
- ・特別支援教育に関する研修で、生徒の実態把握や実践につながる支援の仕方を具体的に学ぶことができた。
- ・教育機器を活用した教材・教具の開発や情報メディア教育についての研修は、実践的で有効であった。
- ・児童指導についての事例研究会において、配慮を要する児童への対応の仕方を理解することができた。
- ・教育相談の基本的な在り方を学び、児童生徒の共感的な理解に努めている。
- ・ワークショップやロールプレイングなどの演習が、具体的で役に立った。
- ・スクールカウンセラーから学んだ問題行動への対応の仕方が、参考になった。

効果の大きかった研修は、多くの校長、研修教員ともに、公開授業や授業研究会をあげていた。公開授業を契機に教材研究の大切さを再認識し、授業研究会で校内の他の教員からアドバイスを受けたことが、自分の授業を振り返り、今後の授業展開を考えていく上で大いに役立っていることがわかった。

校長の回答の中には、他校の教員にも授業を公開したり、高機能自閉症児の保護者への対応の仕方について専門家から指導を受けたりして、他校や関係機関等と連携しながら進めた校内研修が有効だったという記述もあった。

研修教員の回答には、他の教員の授業を参観することが役立ったという記述があった。また、児童・生徒指導や特別支援教育について、事例研究会を行ったりスクールカウンセラーの指導を受けたりして、配慮を要する児童生徒への具体的な対応の仕方を学んだことがよかったという回答もみられた。

- 3 「校長は、決定した研修計画に従って研修を実施し、本研修終了時に再度評価を行い、その結果を当該研修教員に説明し、今後の指導に活用する。」ことになっています。A～Dに当てはまるものに○を付け、校長として研修後評価をどのように活用したか、あるいは活用しようと考えているかについて、□内に具体的にお書きください。(回答者：校長)

(1) 集計結果

	A (十分に活用した)	B (ある程度活用した)	C (あまり活用しなかった)	D (全く活用しなかった)	合計
人数	15	65	3	0	83
%	18.1	78.3	3.6	0	100

(2) 主な自由記述

- 評価の観点に基づいて、研修後も継続的に研修教員に指導・助言を行い、成長を見守るようにしたい。
- 評価結果を踏まえて、自主的な授業研究や教育全般について自己研鑽に励むよう指導した。
- 研修後に、評価結果を、これからの自己研修の方向性や課題等を見つけるための話し合いに活用した。
- 本校独自の自己申告書を用意し、夏休みに個別ヒアリングを行っている。昨年度振り返ったことや今後への抱負が、具体的な実践につながるように指導している。
- 校務分掌や学級担任を決める際に、研修教員のよさをさらに伸ばすように配慮した。今後、中堅教員としての資質の向上にも活用していきたい。
- 優れている点についてはさらに伸ばすように、また劣っている点については意識して観察し、機会を見ては指導するようにしている。
- 教員評価システムを踏まえ、研修教員の能力、適性等について具体的に話し合うとともに、今後の自己研修の在り方について指導しようと考えている。
- 研修教員との話し合いで、評価の観点を明確に示し、意欲を高めるために活用した。
- 研修教員だけでなく、他の教員にも自己点検させ、資質・能力の向上を図る意識づけとして活用したい。
- 研修教員に自分を客観的に見つめさせ、将来を展望させるために活用した。
- ▲常に前向きに取り組む教員で、研修の評価を真摯に受け止めるため、特別活用する必要がなかった。

校長の回答は、「十分活用した」、「ある程度活用した」を合わせると96.4%だった。研修後の研修教員との話し合いの中で、評価の観点に基づいて指導・助言を行ったという記述が数多くあった。具体的には、研修教員の今後の自己研修の方向性や課題等を見つけたり、校務分掌や学級担任を決めたりする際に、評価結果を活用しているというものだった。また、研修教員の指導力の向上を目指して、研修後も継続的に評価結果を生かして指導をしているという記述もあった。

さらに、教員評価システムの導入を視野に入れて、独自の自己申告書を作成して個別のヒアリングを行ったり、研修教員以外の教員にも自己点検をさせたりして、全教員の資質・能力の向上を図っていきたいという記述もみられた。

- 4 教職10年目研修の実施によって、研修教員以外の教員に対して効果や影響がありましたか。A～Dの当てはまるものに○をつけ、□内に具体的な内容をお書きください。(回答者：校長)

(1) 集計結果

	A (かなりあった)	B (ある程度あった)	C (あまりなかった)	D (全くなかった)	合計
人数	20	56	7	0	83
%	24.1	67.5	8.4	0	100

(2) 主な自由記述

- 公開授業や授業研究会が、他の教員の意欲を高め、授業改善につながっている。
- 研修教員の研修に取り組む姿勢が刺激となり、他の教員の研修意欲を高めることにつながった。
- 講話等を行った主任クラスの教員にとって、自分の立場を振り返るよい機会となり、資質・能力の向上につながった。
- 全校体制で校内研修に取り組んだため、すべての教員に刺激となり、活性化につながった。
- 同年代の教員や若手教員が多いので、お互いの刺激になった。
- 他の教員も、授業研究会に参加したり、異校種体験研修や社会体験等研修の報告を聞いたりして、気を引き締めて職務を遂行する雰囲気が出てきた。
- 課題研究の成果を全教員に配布した。経験の浅い教員には指標となり、経験のある教員には刺激になった。
- 本研修の復命書を配布したことで、他の教員への啓発に役立った。
- ▲研修教員にとっては有効であった。しかし、本人が多くの課題等を消化することに追われてしまい、他の教員への波及は難しかった。
- ▲公開授業や授業研究会に参加し、授業について考える機会にはなったが、他の教員に対して効果があったかどうかは疑問である。
- ▲新たな校内研修を行うことができなかったため、研修の成果を広めることができなかった。

校長の回答は、「かなりあった」、「ある程度あった」を合わせると、91.6%だった。教科や道徳に関する公開授業や授業研究会をあげたものが23件にのぼり、最も多かった。同じ学年や教科の教員が、公開授業に向けた教材研究にかかわることによって、教材に対する理解が図られたり、授業を見る目が養われて指導法が工夫されたりして、各自の授業改善につながったという記述が数多くみられた。更に、研修教員への指導にあたった他の教員が、あらためて自分の役割や立場を自覚するきっかけとなったという記述もあった。

また、校長がリーダーシップを発揮して、異校種体験研修や社会体験等研修について校内研修の中で報告させたり復命書を配布させたりして、本研修の他の教員への共有化を図っている学校もあることがわかった。

- 5 教職10年目研修で得られた成果や課題をもとに、現在自主研修に取り組んでいるかについて、A～Dの当てはまるものに○をつけ、どのような自主研修を行っているのかを□内に具体的にお書きください。（回答者：研修教員）

(1) 集計結果

	A (積極的に取り組んでいる)	B (ある程度取り組んでいる)	C (あまり取り組んでいない)	D (取り組んでいない)	合計
人数	17	62	9	2	90
%	18.9	68.9	10.0	2.2	100

(2) 主な自由記述

- 課題研究で得られた新たなテーマに、継続して取り組んでいる。
- 教科別分科会で学んだ指導法をもとに、子どもの興味・関心を喚起する教材・教具を工夫したり、個に応じた指導の在り方を研究したりしている。
- 質の高い、よりよい授業が学級経営の一番の要となることを学んだので、専門書を読み、発問や指示を精選するなど、学習指導の充実を図っている。
- よりよい学級経営の在り方を、自主研修のテーマとして取り組んでいる。
- 指導の重点を学級経営においている。学級経営や児童・生徒指導に関する希望研修を受けたいと考えている。
- 教育相談研修を受講している。今後も、年に1回は何らかの研修に参加し、自己研鑽に努めたい。
- 特別支援教育についての専門性を高めるために、専門書を読むなどして自主研修を行っている。
- 昨年度、本研修のために見送った特別支援教育についての研修を受講している。
- 道徳の時間の充実を図るために、教材研究を十分に行って授業を展開するようにしている。
- 生徒による授業評価を工夫し、授業展開に生かすようにしている。
- ▲日々の授業や学級事務等で忙しいため、自主研修を深めるところまでには至っていない。
- ▲現在は、日々の児童・生徒指導や他の職務で精一杯である。
- ▲全ての教科で基礎・基本の定着を図る指導の在り方を考えているが、具体的方法が見つからず、試行錯誤している。

研修教員の回答は、「積極的に取り組んでいる」、「ある程度取り組んでいる」を合わせると87.8%だった。

最も多いのは学習指導に関するもので、課題研究の成果や教科別分科会で学んだことを生かして、自主研修に取り組んでいるという記述だった。課題研究で得られた新たなテーマに取り組んだり、教科別分科会で学んだ指導法を工夫、実践したりするという回答が多かった。

その他には、道徳、学級経営、教育相談、特別支援教育等の分野で、自主研修を進めているという回答があった。研修教員が、本研修で得られた成果や課題をもとに、様々な内容や方法で自主研修に取り組んでいることがわかった。

一方、自主研修の必要性は認識しつつも、日々の業務に追われ、自主研修の時間を見出せないという記述もあった。

6 総合教育センター等における研修のうち、職務を遂行する際に役立った研修をすべてあげてください。(回答者：研修教員)

(1) 集計結果(複数回答)

研修区分	人数	研修区分	人数
ア 学習指導に関する研修	64	オ 社会体験等研修	41
イ 児童・生徒指導に関する研修	22	カ 異校種体験研修	41
ウ 学級経営に関する研修	17	キ 選択研修	17
エ 道徳教育に関する研修	36	ク その他	2

(2) 主な自由記述

ア 学習指導に関する研修

- ・1年間課題研究について取り組んだことで、授業を展開する上で自分が迷っていたことが明らかになり、実践に生かせるようになった。
- ・教科別分科会で他の先生方の取り組みについて話し合う機会があり、今後の参考になった。

イ 児童・生徒指導に関する研修

- ・異校種の先生方と、不登校やいじめ防止のための取り組みについて話し合う中で、多くの示唆を受けたことが、今後に生かせると思う。
- ・児童・生徒指導の理論的な裏付けの大切さを知ることができた。

ウ 学級経営に関する研修

- ・同じ学級担任という立場の先輩教員からの講話だったので、共感することが多く、また、悩んでいた部分がすっきりと解決された。

エ 道徳教育に関する研修

- ・初めて道徳の指導案づくりの研修を受けて、とても役立った。
- ・発問の工夫等を一から勉強することができたので、道徳の魅力を改めて発見できた。

オ 社会体験等研修

- ・接客や商品管理等の普段できない仕事を経験し、視野を広めることができた。
- ・他の職種の方々に接し、仕事に対する厳しい姿勢や強烈なプロ意識に刺激を受け、社会の一員としての心構え、人としての生き方を学ぶことができた。

カ 異校種体験研修

- ・中学校での生徒の様子や指導法がわかったので、小学校の役割が理解できた。
- ・養護学校についての理解が深まった。

キ 選択研修

- ・土曜開放講座で学んだカードを使った算数の指導法が、授業展開に役立った。

ク その他

- ・特別支援教育の講話がわかりやすく、身近にいる生徒の支援に役立った。

選択数が最も多かったのは学習指導に関する研修で、次いで社会体験等研修、異校種体験研修、道徳教育に関する研修の順になっている。

学習指導に関する研修では、課題研究や、教科別分科会で研究協議をしたことが、指導力を向上させる上で大いに役立ったという記述が多かった。社会体験等研修では、民間企業や福祉施設等において普段できない仕事を経験できたことや、プロ意識をもって仕事に取り組んでいる他の職種の方々に接することができたことで、視野が広がったという記述が数多くみられた。異校種体験研修では、チーム保育やT・Tによる授業実践等を通して、異校種の教育についての理解が深まったという記述が多かった。道徳教育に関する研修では、教育事務所における資料分析や指導案づくり、公開授業で行った道徳の授業により、その後の道徳の授業実践への意欲を高められたという記述が多かった。

なお、平成16年度の異校種体験研修と社会体験等研修の研修先、選択研修の選択の内訳は、下表(数値は%)の通りである。

異校種体験研修

	小学校	中学校
幼稚園・保育園	70.0	22.0
小学校	—	44.0
中学校	23.0	—
高校	1.0	23.0
盲・聾・養護学校	6.0	11.0

社会体験等研修

福祉施設	18.0
民間企業	51.0
生涯学習関連施設	31.0
ボランティア活動	0.0

選択研修

宇大附属小・中学校公開研	34.1
土曜開放講座	23.0
サマーセミナー・SPP	12.2
小・中教研	11.7
県教委	10.0
市町村教委	5.3
センター研修	3.7

- 7 総合教育センターにおける研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。
(回答者：校長・研修教員)

校長

主な自由記述

- ・今後の教育や現在の教育界の動向に関する講話
- ・指導力や統率力をつける研修
- ・中堅教員のための組織マネジメント研修
- ・教育課程の編成方法に関する研修
- ・評価の在り方に関する研修
- ・教育公務員としてのサービスについての研修
- ・文書作成のノウハウに関する研修
- ・部活動指導に関する研修
- ・具体的事例に基づく法規演習
- ・教員の不祥事撲滅に関する研修
- ・特別支援教育に関する専門的な研修
- ・問題行動の早期発見、早期対応の在り方に関する研修
- ・3日間程度の15年目研修の創設

研修教員

主な自由記述

- ・児童指導や学級経営に関する具体的な講話
- ・企業における社員教育
- ・部活動指導に関する研修
- ・進路指導に関する研修
- ・英会話や英語学習の研修
- ・ケースカンファレンスやカウンセリング研修
- ・体育実技研修
- ・異校種体験研修や社会体験等研修の期間延長
- ・更生施設等の見学
- ・民間企業の厳しさや業務についての講話
- ・教育界著名人の講話

校長は、教育界の動向に関する講話、学校経営や教育のサービス等、教育公務員として資質・能力の向上を図る内容を希望していることがわかった。

研修教員は、学習指導や児童・生徒指導等に関する実践的な研修を希望していることがわかった。また、民間人等による幅広い視点からの講話を希望する回答もあった。

Ⅲ 県立学校

- 1 研修教員が研修終了後、研修の成果をその後の指導に生かしているかについて、ア～ウの項目のA～Dの当てはまるものに○をつけ、□内に具体的な内容をお書きください。

(回答者：校長・研修教員)

ア 学習指導力の向上

校長

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	21	11	0	0	32
%	65.6	34.4	0	0	100

(2) 主な自由記述 (○は肯定的意見、▲は否定的意見、以下同様)

- 課題研究の成果を十分生かし、努力しながら授業をしている様子が見て取れる。
- 今まで以上に教材研究をするようになり、わかりやすい授業を展開できるようになった。
- 研修で学んだ新しい指導法を取り入れ、生徒の興味・関心を高めるなど、指導力の向上が様々な場面で見られるようになった。
- 生徒による授業評価をもとに、教材の開発や授業の工夫・改善に努めている。
- 教材や指導法を工夫して、学習意欲を喚起させ、指導と評価の一体化に配慮した授業を展開できるようになった。
- 一人一人の教育的ニーズを考慮して教材を選ぶことができるようになり、学習指導において著しい進歩が見られた。
- 自分の授業に自信を持つようになり、校内の中堅として、後輩の学習指導に関する相談にも応じられるようになった。
- 児童の実態や保護者の願いを把握し、指導目標やねらいを明確にした個別の指導計画が立てられるようになった。

研修教員

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	12	38	0	0	50
%	24.0	76.0	0	0	100

(2) 主な自由記述

- 課題研究で取り組んだ成果や課題をもとに更に研究し続け、授業の改善に役立てている。
- 公開授業及び授業研究会やビデオによる授業研究によって、改めて自らの授業を見直すことができた。
- 公開授業や課題研究を通して、シラバスや評価規準の重要性を実感し、ねらいを明確にした授業を行うようになった。
- 教材研究の重要性を改めて認識し、積極的に教材研究を行うようになった。
- 教科別分科会で他校の先生方の指導法を学んだことにより、自分自身の指導法に幅が出た。
- 生徒による授業評価は大変参考になった。自分の話し方に気をつかうようになるなど、今年の授業に生かしている。
- 研修で学んだ情報機器を活用した指導法を、現在も意識して実践している。
- 同じ授業にかかわる教員同士で、児童の良さや進歩の状況を話し合い、共通理解を図るようになった。
- 指導形態が全体でも個別でも、児童の実態を踏まえて、児童にあった教材や指導内容を準備しようという意識が以前より高まった。

校長、研修教員の回答はともに、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると100%であった。

課題研究や教科に関する研修を通して、学習指導に関する意識の改革や指導技術の向上、指導法の改善が行われ、学習指導力の向上が図られていることがわかった。公開授業などを通し、マンネリ化した自分の授業を見直し、改めて教材研究の重要性を認識したという記述が多かった。また、生徒による授業評価が、自分の授業を振り返る上で大変参考になり、効果的であったとの意見が数多くあった。

イ 児童・生徒指導力の向上

校長

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	9	22	1	0	32
%	28.1	68.8	3.1	0	100

(2) 主な自由記述

- 研修を通して、生徒指導に対する粘り強い指導態度が醸成された。
- カウンセリングマインドを心がけ、これまで以上に幅広い観点から生徒を理解しようと努めている。
- 多くの生徒を視野に入れ、生徒一人一人の良さを引き出し、伸ばす指導ができるようになった。
- 良いことは大いにほめ、悪いことはきちんと叱るなど、生徒への適切なかかわりができるようになった。
- 他の教員や保護者と緊密な連携を図るようになり、生徒を多面的に理解できるようになった。
- 児童の実態を把握しようと努めており、個々の障害の状況等に応じた対応を心がけるようになった。

研修教員

(1) 集計結果

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	5	38	7	0	50
%	10.0	76.0	14.0	0	100

(2) 主な自由記述

- アサーショントレーニングやロールプレイングで学んだことを生かし、生徒一人一人とのコミュニケーションを今まで以上にとるようになった。
- どんな小さなことでも気づき、ほめるよう心がけ、生徒の良さを伸ばすよう努めている。
- 画一的でなく、個々の生徒に応じた適切な指導が必要であることを認識し、一人一人と向き合って話すことを心がけるようになった。
- 異校種の先生方との話し合いを通して、発達段階に応じた指導を意識するようになった。また、研修を通して、知り合いの小・中学校教員が増え、情報を得やすくなった。
- 生育歴や家庭環境、保護者の意見など幅広い観点から児童生徒を見ることができるようになった。
- ▲研修は参考になったが、日々の仕事に忙殺され、具体的な成果を認識するまでには至っていない。
- ▲児童の発達段階や性格に応じた指導を心がけているが、まだ具体的な指導には自信がない。こうすればよかったと後で考えることが多い。

校長の回答は、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると96.9%であり、研修教員の回答は86.0%であった。

校長は、生徒理解や生徒のよさを引き出す指導、他の教員や保護者との連携などに関して研修の成果を認めている。

研修教員の多くは、児童・生徒指導が問題行動への対応のみではないことを理解し、児童生徒の自己指導能力の向上に向けて努力していることがわかった。研修で学んだ、ロールプレイングやアサーショントレーニングなどの技法を活用し、児童生徒の理解や、児童生徒との共感的人間関係の構築に努力しているという研修教員が多かった。また、異校種の先生方との話し合いを通して、小・中学校と県立学校とが連携して一人一人の子どもを育てているということを再認識したようである。

ウ ホームルーム・学級経営力の向上

校長

(1) 集計結果

(無回答：1名)

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	11	19	1	0	31
%	35.5	61.3	3.2	0	100

(2) 主な自由記述

- 研修で学んだ新たな指導法を用い、生徒一人一人を大切にしながら、集団として調和のとれたHRづくりに成果を上げた。
- 研修の成果を生かし、生徒が主体的に行動するような指導を心がけている。
- 生徒の考え方を尊重し、生徒の目線でかかわるよう配慮している。
- 教育相談的な手法を取り入れ、生徒理解に努めている。個々の生徒の家庭環境や生育歴等によって対応の仕方を変え、柔軟な接し方ができるようになった。
- きめ細やかな面接指導を行うとともに、副担任や保護者と密接な連携をとるようになった。
- 学年主任や他の担任と連携をとりながらクラスをまとめている。
- 小中学校の先生方との情報交換で学んだことを、現在のHR経営に生かしている。
- 保護者との連携を密にして個別の指導計画を立て、一人一人の児童生徒の将来を見据えたHR経営を心がけている。
- ▲副担任という立場のせい、HR経営に参画する意欲がもう一歩である。

研修教員

(1) 集計結果

(無回答：2名)

	A (かなり生かしている)	B (ある程度生かしている)	C (あまり生かしていない)	D (全く生かしていない)	合計
人数	3	28	17	0	48
%	6.3	58.3	35.4	0	100

(2) 主な自由記述

- 個々の生徒の性格をよく理解し、全員がHR活動に参加できるように努めている。
- より深く生徒理解ができるようになり、面談で適切な指導助言が行えるようになった。
- アサーショントレーニングで学んだ技法をクラス経営に生かしている。
- 生徒と教師が互いに理解し合う場になればと考えて、学年便りを出し始めた。LHR資料も自作するようになった。
- 研修で学んだ構成的グループエンカウンターを年度当初のHRで利用した。その後も生徒同士の人間関係づくりに取り組んでいる。
- 副担任という視点で、担任と連携をとりながら、内向的な生徒を見守ったり、落ち着きのない生徒の話を聞いたりするようにしている。
- 他の担任や養護教諭はもちろん、保護者とも連携を密にしながらHR経営を行うよう心がけている。
- ▲研修での講話は大変参考になったが、今年度、正担任でないため生かすことができない。
- ▲児童生徒と話す機会を設けるようにしているが、まだ、十分な信頼関係を築くまでには至っていない。
- ▲総合教育センターの研修では、HR経営に関する内容が少なかったと思う。

校長の回答は、「かなり生かしている」、「ある程度生かしている」を合わせると96.8%であったが、研修教員の回答は64.6%で、大きな差がみられた。

また、多くの校長、研修教員から、児童生徒理解、HR・学級の人間関係づくり、他の教員や保護者との連携の在り方など、研修で学んだことを生かしているとの回答があった。

反面、研修教員の35.4%が「あまり生かしていない」と回答した。その理由をみると、正担任でないので研修成果を生かせないとの記述が多かった。

エ その他

校長

主な自由記述

- 昨年度に比べて、校務分掌に自ら進んで取り組む前向きな姿勢が見られるようになった。研修後も適度な緊張感をもって取り組んでいる。
  - 科をよくまとめ、その中核としてリーダー性を発揮している。
  - 学校における自身の立場をしっかりと認識し、円滑な校務運営に努めている。
  - 経験の浅い教員に、親身に指導助言をする姿が見られるようになった。
  - 社会体験等研修、異校種体験によって、社会性が身につく、視野が広まり、生徒への接し方に変化がみられた。
- ▲小規模校のため、生徒指導をはじめ多くの校務をかかえており、負担が大きかった。

研修教員

主な自由記述

- 時間的には厳しい面が多かったが、10年目研修において多くのことを学び、充実した一年間だったと思う。今すぐに生かすというよりは、今後の教員生活において何らかの形で生かしていけると思う。
  - 10年目研修を機に、自分の指導力のなさを痛感した。10年目研修を今後の向上のきっかけとしたい。
  - 社会体験等研修及び異校種体験が視野を広げるのに役立った。外部から見た学校の姿を意識するようになった。
  - 最終講話「今、教員に求められるもの」は大変参考になった。教えていただいたことを、学級や職員室、家庭でも実践するよう心がけている。
  - 初任研の指導教官として初任者にアドバイスをする際に、この研修で学んだことが生きている。
- ▲課題研究だけでなく、教科の専門性を高めるような研修をもっと実施してほしい。
- ▲校務運営に関することについて研修を受けたい。

校長、研修教員ともに、学習指導、児童・生徒指導、HR・学級経営以外にも様々な面で成果があがっているとの記述が多かった。

校長の回答には、本研修をきっかけに、以前よりも校務に前向きに取り組む姿勢がみられるなど、研修教員に意識の変化が見られるようになったという記述が多く、ミドルリーダーとしての意識が生まれてきている例も多くあげられていた。また、社会体験等研修や異校種体験研修に関して、社会性が身に付いたり、視野が広がったりするなど、多くの効果があったという記述が目立った。

研修教員の回答には、本研修を今後の向上のきっかけとしたいという前向きな記述が目立った。また、本研修で学んだことを後輩のアドバイスに生かしたいという回答もあり、中堅教員としての意識の芽生えもうかがえた。

- 2 平成16年度の校内研修では、どのような研修が有効でしたか。(回答者：校長)
平成16年度の校内研修では、どのような研修が役立ちましたか。(回答者：研修教員)

校長

主な自由記述

- ・公開授業や授業研究会が有効であった。以後の授業に対する姿勢が大きく変化した。
- ・本校では公開授業を3回実施した。学習指導力の向上に大いに役立った。
- ・面接技法に関する研修や、事例研究会などの教育相談に関するものが有効であった。
- ・情報機器を利用した指導に関する研修が有効であった。その後、情報機器を積極的に活用している。
- ・管理職、各部長及び学年主任などの講話、説明が有効だった。
- ・通常の校内生活ではあまり触れ合うことの少ない他教科の教員や管理職との直接対話などを通して、教育に関する視野が広がったのではないかと思う。
- ・校内のシラバス作成に携わったことが大きな体験となり、学校全体の教育内容に対する理解が深まった。
- ・他の教諭の授業を参観させたことが双方の刺激となった。
- ・他学部の授業体験を行うことで、小中高の一貫した教育について再認識することができた。

研修教員

主な自由記述

- ・公開授業及び授業研究会により、授業の欠点や長所が指摘され、改めて自らの授業のやり方を振り返ることができた。
- ・公開授業を学校評議員の方にも見ていただき、授業について感想や意見をいただいたことは大変意義深く、授業の振り返りに役立った。
- ・近隣の小学校の公開授業に参加し、授業を工夫することの大切さを実感した。
- ・他の先生方の授業見学をしたことで、それぞれの先生方が持つ独自の授業の進め方やノウハウを知ることができ、自分の授業を様々な角度から見直すヒントとなった。
- ・情報機器の利用、進路指導、教育相談に関する研修など実践的な研修は全て役立った。
- ・PTA役員との話し合いが役に立った。
- ・管理職や各部長などの講話や、校内の先輩の先生方から専門的な話を聞いたことが、大変勉強になった。
- ・スクールカウンセラーを講師とした生徒理解に関する研修や、保健室での生徒の実態把握が役に立った。
- ・学部間交流が、本校における小中高の一貫した指導の在り方について考えるよい機会となった。
- ・発達検査法などの専門的なスキルアップにつながる研修が役立った。

効果の大きかった研修は、多くの校長、研修教員ともに、公開授業と授業研究会を第一にあげていた。公開授業が自分の授業を振り返るきっかけとなって、より一層の教材研究に努めるようになり、また、授業研究会における他の教員からのアドバイスや指摘が授業改善に大いに役立ったという記述が大変多かった。学校によっては、公開授業の回数を増やしたり、公開の範囲を地域の方々や学校評議員にまで拡大している例も報告された。さらには、優れた先輩教員の授業を研修教員に参観させた学校もあった。

このほか、校長の多くが、管理職による講話などをあげており、管理職との直接対話を通して教育に対する視野が広がったという記述もみられた。

また、研修教員の多くは、情報機器の利用、進路指導、教育相談に関する研修、管理職等の講話をあげており、実践的かつ専門的な研修が役立ったと回答している。

- 3 「校長は、決定した研修計画に従って研修を実施し、本研修終了時に再度評価を行い、その結果を当該研修教員に説明し、今後の指導に活用する。」ことになっています。A～Dに当てはまるものに○を付け、校長として研修後評価をどのように活用したか、あるいは活用しようと考えているかについて、□内具体的に書きください。(回答者：校長)

(1) 集計結果

	A (十分に活用した)	B (ある程度活用した)	C (あまり活用しなかった)	D (全く活用しなかった)	合計
人数	12	20	0	0	32
%	37.5	62.5	0	0	100

(2) 主な自由記述

- 研修内容を一つ一つ確認しながら、本人の研修状況をチェックできた。
- 研修終了後、一層伸びた点、改善が見られた点および変化がなく改善の余地がある点を確認し、研修教員のさらに伸ばすべき点と今後の課題を明らかにすることができた。
- 校長と研修教員が話し合う機会が増え、研修教員に校長の考えが浸透しやすくなり、研修教員への理解も深まった。
- 「1. 学習指導、2. 生徒指導、3. 進路指導、4. HR経営」の各項目ごとに研修後の評価を説明し、評価を通して研修教員の課題を明らかにできた。
- 研修教員のよさを、本人のみならず、管理職が確認でき、研修教員の意欲向上に役立った。このことは、学校経営上大変参考になった。
- 研修教員の自己評価により、抱えている課題や適性等に関する認識を共有することができ、研修終了後も課題等の解決に向けての助言に役立っている。
- 研修前は自己評価が低い面が見られたが、研修後の評価を話し合うことによって、10年目の教員としての自覚と自信につながった。
- 教員評価を念頭におき、研修終了後の面接で成果や期待したいことなどについて話をした。
- 評価をしっかりと受け止めさせ、不十分な点は努力改善を図るよう指導した。今後は、評価を参考にして、校務等でもより戦略的に様々な仕事を持たせ、力をつけさせたい。
- 校務分掌を決める際に、研修で体得したことを実践できるよう配慮した。
- これまでの教員生活を顧みる機会となり、今後の教員生活の目標づくり、計画づくりを活用できる。

校長の回答は、「十分活用した」、「ある程度活用した」を合わせると100%であった。すべての校長が、研修教員の今後の課題や伸ばすべき点を確認し、研修評価を研修終了後の継続的な指導に活用していることがわかった。具体的には、校長と研修教員が今後の課題や伸ばすべき点を確認し合う際に研修教員の自己評価を活用した例や、研修後の評価を十分に研修教員に説明することで研修教員の自覚が高まった例、校務分掌を決定する際に研修評価や研修成果を生かしている例などが報告された。

また、研修評価を通して今まで気付かなかった研修教員の良い点を確認できたという回答や、校長が研修教員の優れた点を賞賛することが、研修教員のやる気、意欲につながったという回答もあった。

- 4 教職10年目研修の実施によって、研修教員以外の教員に対して効果や影響がありましたか。A～Dの当てはまるものに○をつけ、□内に具体的な内容をお書きください。(回答者：校長)

(1) 集計結果

	A (かなりあった)	B (ある程度あった)	C (あまりなかった)	D (全くなかった)	合計
人数	7	24	1	0	32
%	21.9	75.0	3.1	0	100

(2) 主な自由記述

- 研修教員が意識をもって研修することで、周囲の教員の自己研修への意識が高まった。
- 公開授業、授業研究会を通して、教科内で教科指導法等の話し合いがなされ、お互いの指導力が向上した。特に、若手の教員にとっては、先輩の授業を参観でき、非常に勉強になった。
- 公開授業と授業研究会に多くの教員を参加させたことは、他の職員への心理的効果が大きいと思われる。
- 多くの教員が公開授業と授業研究会に参加し、自己の授業力向上につなげた。
- 公開授業・授業研究会を実施することで、指導案の書き方、展開の工夫、教材教具の研究、児童生徒の実態把握など、他の教員にとっても効果があった。
- 社会体験等研修や異校種体験、公開授業の結果報告や、授業アンケートの集計結果の報告等が、他の教員の意識改革に効果があった。
- 課題研究の成果などを校内研修で講師として発表したことが、他の教員の意識の高揚や指導力の向上に役立った。
- 研修教員に、公開授業などの日程や内容を朝の打ち合わせや職員会議で説明させたことによって、研修の意義や必要性を他の教員に浸透させることができた。
- 研修教員自らが、社会体験や異校種体験の研修先と、日程や研修内容について連絡調整する姿が、他の教員にも実感として伝わり、よい刺激となった。
- ▲研修教員と同じ教科の教員には影響や効果があったが、他教科の教員にまで影響が及ぶほどではない。

校長の回答は、「かなりあった」、「ある程度あった」を合わせると96.9%であった。

自由記述からは、公開授業、授業研究会の実施が、研修教員のみならず他の教員の授業力向上にもつながっていることがわかった。多くの教員を公開授業と授業研究会に参加させることによって、他の教員にも影響を広げようとしている学校が多かった。本研修の実施により、一人一人の教員が他の教員の授業を見る機会が増えたとの回答もあった。また、公開授業に向けて、準備段階から同一教科の教員が協力して取り組んだことで、研修教員以外の教員も指導力の向上が図れたとの記述もみられた。

また、本研修に積極的に取り組む研修教員の姿に、他の教員も刺激を受け、自主研修の意欲の向上につながったとの回答も数多くあった。校長が、研修教員に研修状況や研修成果を説明や報告させる機会を設定したり、校内研修の講師を任せたりして、他の教員への波及効果を高めようとしたという回答もあった。

- 5 教職10年目研修で得られた成果や課題をもとに、現在自主研修に取り組んでいるかについて、A～Dの当てはまるものに○をつけ、どのような自主研修を行っているのかを□内に具体的にお書きください。（回答者：研修教員）

(1) 集計結果

	A(積極的に取り組んでいる)	B(ある程度取り組んでいる)	C(あまり取り組んでいない)	D(取り組んでいない)	合計
人数	9	30	9	2	50
%	18.0	60.0	18.0	4.0	100

(2) 主な自由記述

- 専門的技術、知識の習得に向けて努力し、教科指導力の向上を図っている。
- 10年目研修を終了したことで、学習指導や生徒指導などの様々な面で向上心を持てるようになったと思う。校務分掌の量も責任も、少しずつ重いものになってきている。積極的に学び、責任を全うできるように頑張っている。
- 日々全ての授業、生徒指導、学級経営などにおいて自ら研修を続けている。
- 課題研究で、評価規準を明確にした授業を研究したが、評価規準の生徒への提示の仕方に工夫が必要と考え、さらに研究を続けている。
- 課題研究では、基礎・基本の徹底をテーマにし、理解力不十分の生徒を対象としていたが、現在は上位の生徒の能力をいかにして伸ばし、自ら考えることができるようにするかを主眼において、研究に取り組んでいる。
- 教育相談の知識、技術の習得を目指して、今年度から専門研修に参加し始めた。
- 生徒に自分の個性や価値を気づかせるために、新たにポートフォリオを導入するなどして、生徒指導および進路指導の改善に取り組んでいる。
- 選択研修で学んだソフトウェアを利用した教材づくりを、現在も継続している。
- 課題研究のテーマとして自閉症を取り上げたが、さらに掘り下げて研究している。学校現場だけでなく、生徒のライフプランを考えたサポートについて研修中である。
- 個に応じた指導ができるように、児童一人一人の指導記録をつけたり、保護者との連携を十分に図ったりしながら、個別の指導計画の作成に取り組んでいる。
- 10年目研修で自閉症児の指導の重要性に気づかされたことが、今年度の指導に役立っている。更に、TEACCHプログラムの視覚的構造と自立課題について研修を積んでいきたい。
- ▲現状では、日々の職務に追われ、自主研修があまり行えていない。
- ▲確かに得るものはあったのだが、結局その場だけになってしまい、その後に生かしていない。
- ▲課題研究で取り組んだ学級の担当ではなくなったので、継続した研究は行えない。
- ▲今後取り組むべき課題は多くあるが、思ったほど取り組めていない。

研修教員の回答は、「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」を合わせて78.0%であった。

多くの研修教員が、研修終了後も課題研究を継続したり、新たなテーマを設定して研究するなど、自主研修に取り組んでいることがわかった。学習指導に関して自主研修を続けている研修教員が最も多く、課題研究のテーマを発展させている例が多い。研修終了後、課題解決のために、総合教育センターの専門研修Ⅱを受講するようになったとの記述もあった。

また、盲・聾・養護学校の研修教員の中には、自閉症児に対する支援や障害者に対する進路指導、知的障害者における性教育などの特別支援教育に関する専門的なテーマに対して、前向きに取り組んでいる例が数多く報告されている。

一方、自主研修の必要性は認識しつつも、日々の業務に追われ、自主研修の時間を見いだせないとの記述もあった。

6 総合教育センター等における研修のうち、職務を遂行する際に役立った研修をすべてあげてください。(回答者：研修教員)

(1) 集計結果(複数回答)

研修区分	人数
ア 学習指導に関する研修	21
イ 児童・生徒指導に関する研修	13
ウ HR・学級経営に関する研修	5
エ 社会体験等研修	21
オ 異校種体験研修	34
カ 選択研修	20
キ その他	0

(2) 主な自由記述

ア 学習指導に関する研修

- ・授業に関して、今までは一つの方法、一つの考え方に固執しがちであったが、これまでとは別の手段、新しい考え方に触れることができた。
- ・他の先生方の取り組みについて話し合う機会があり、今後の指導の参考になった。また、自分の研究についてもアドバイスしてもらえらることで励みになった。

イ 児童・生徒指導に関する研修

- ・構成的グループエンカウンターに関する研修は、実践的な内容で役に立った。実際に生徒同士の人間関係づくりに活用した。
- ・知覚認知とその方法を知ることができ、視覚障害を持つ生徒の見えにくさについて理解を深めることができた。

ウ HR・学級経営に関する研修

- ・家庭環境や生徒間の人間関係を把握するなどして、多面的に生徒を見ることの重要性がよく理解できた。
- ・安全教育、言語活動の適正化など、学級経営において配慮すべき点がわかった。

エ 社会体験等研修

- ・企業の仕事の厳しさや従業員の責任感の強さなどを直に感じることができ、有意義だった。
- ・事前に先方と連絡を取ったり、手続きをすることも勉強になった。

オ 異校種体験研修

- ・幼・小・中・高の教育は、独立しているのではなく、全てが一連のものであると感じた。
- ・視野が広がった。生徒の成長を助ける目を養うことができた。

カ 選択研修

- ・教科に関する専門的な内容の研修で、教材開発のよいヒントになった。
- ・専門性を高めるとともに、最新の障害児教育に関する情報を得ることができ、大変参考になった。

(3) 考察

最も多くあげられたのは異校種体験研修で、次いで学習指導に関する研修、社会体験等研修、選択研修の順であった。

異校種体験研修や社会体験等研修は、普段できないことを体験でき、視野が広まったとの理由で評価が高かった。特に異校種体験研修では、小・中学校と県立学校との連携の大切さに気付いたという回答が目立った。また、社会体験等研修では、事前に先方と連絡を取り合うことも勉強になったとの回答が数多くあった。学習指導に関する研修では、課題研究と教科別分科会、ビデオによる授業研究が役立ったようである。選択研修では、土曜開放講座や教職員サマーセミナーに参加した者が多かった。

なお、平成16年度の異校種体験研修と社会体験等研修の研修先、選択研修の内訳は、下表(数値は%)の通りである。

異校種体験研修			社会体験等研修		選択研修	
	高	盲・聾・養				
幼稚園・保育所	9.0	43.7	福祉施設	38.8	土曜開放講座	35.0
小学校	38.8	37.5	民間企業	41.8	サマーセミナー	27.5
中学校	38.8	6.3	生涯学習関連施設	18.4	高教研	20.0
高等学校	—	12.5	ボランティア体験	1.0	専門研修Ⅱ	15.0
盲・聾・養護学校	13.4	—			SPPによる教員研修	2.5

7 総合教育センターにおける研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。
(回答者：校長・研修教員)

校長

主な自由記述

- ・中堅教員として、学校経営の一翼を担える能力の開発を図るとともに、組織の一員としての使命感を醸成する研修（学校組織マネジメント研修）
- ・教師としてプロ意識を強く持ってもらうような、自己啓発につながる研修
- ・様々な問題について討論をし、意見を集約するような研修
- ・民間企業の厳しさや業務についての講話
- ・教育課程の編成方法の研修
- ・評価規準の作成方法と評価方法の研修
- ・特別支援教育に関する専門的な研修
- ・生徒理解に役立つ実践的な研修
- ・授業における情報機器の活用に関する研修
- ・法規演習をもっと取り入れてほしい。
- ・社会体験等研修をもう少し長期間としてもよいのではないか。

研修教員

主な自由記述

- ・教科の専門性を高めるような研修
- ・民間人による、学校と異なる視点の講話
- ・外部機関（児童相談所など）と連携した研修
- ・具体的事例に基づく法規演習
- ・授業の名人といわれるような教師の授業を見学する研修
- ・特別支援教育に関する専門的な研修
- ・選択研修の機会を増やしてほしい。
- ・教育相談に関する研修を増やしてほしい。
- ・児童・生徒指導、生徒理解の研修は、高校と盲・聾・養護学校を分けて実施してほしい。

校長は、教育界の動向に関する講話、学校経営や教育の服務等、教育公務員として資質・能力の向上を図る内容を希望していることがわかった。

研修教員は、学習指導や児童・生徒指導等に関する実践的な研修を希望していることがわかった。また、民間人等による幅広い視点からの講話を希望する回答もあった。

IV まとめ

本項では、次の①から③の観点にしたがって、アンケートの結果をまとめた。

- ①本研修を終了した研修教員が、個々の課題に応じて実施した研修の成果を、現在の指導に生かし、指導力が向上しているか。
- ②本研修の特徴の一つである研修の事前および事後の評価が、有効に活用されているか。
- ③本研修の実施が、校内の他の教職員にどのような影響を及ぼしているか。

アンケートの結果から

①に関しては、研修教員の回答から、研修教員自身が、本研修の成果を生かし、指導力が向上したととらえていることが分かった。学習指導に関しては、課題研究や公開授業、教科別分科会等が指導法の改善に役立ったことを挙げている。また、児童・生徒指導並びにHR・学級経営に関しては、本研修で習得したロールプレイングやアサーショントレーニングなどの技法を用いて、積極的に児童生徒理解に努めている様子が見られた。

一方、校長の回答には、研修教員が本研修を契機に、教職に対する使命感を再認識したり、組織の中での役割を考えながら教育活動ができるようになり、意識の変革が見られるようになった、など中堅教員としての意識の高まりが感じられるという記述が多かった。

このほか、研修教員の多くが、本研修終了後の現在においても、様々な分野で自主研修を継続していると答えている。本研修では、研修教員の課題解決とともに得意分野を伸ばすことを意図している。研修教員には、本研修で得られたことをベースに、今後の自主研修を通して力量アップに努めていただきたい。

②に関しては、校長の回答から、校長の多くが、研修前・研修後の各評価を日々の指導に生かしていることが分かった。これは、本研修に「評価」が導入されたことにより、校長と研修教員の話し合う機会が増え、今まで気付かなかった研修教員の優れた点を把握できるようになり、研修教員への理解が深まったり、校長の考えが研修教員に浸透しやすくなったという評価システムの効果に関する回答が数多く見られたことから明らかである。

「I はじめに」の箇所でも触れたとおり、本研修は、この評価システムを導入したことが最大の特徴である。校長は、今後とも教頭や主任等の協力を得ながら、より評価の客観性を高めるよう工夫するとともに、研修教員の自己評価や意見を取り入れるなどして、個に応じた研修計画の作成に努めていただきたい。

③に関しては、校長の回答から、ほとんどの学校で効果や影響があったということが分かった。公開授業をはじめ、校内等における様々な研修が、研修教員はもとより、他の教員の意識改革にもつながったようである。また、本研修に積極的に取り組む研修教員の姿に、他の教員も刺激を受け、自主研修に励む雰囲気在校内に醸成されたとの記述も見られ、校長の部下を育てるといった観点からの心配りやリーダーシップが発揮されている様子を見ることができた。

各学校においては、信頼される学校づくりを進めるに当たり、個々の教員が絶えず自らの指導力の向上に努めるとともに、協働して様々な教育活動に取り組んでいくことが求められている。そのためには、日常の教育活動と密接なつながりを持った実効性のある校内研修を計画的に実施し、そこに全職員が意欲と使命感をもって取り組むことを期待するものである。

今後に向けて

現在、様々な改革の中にあつて、研修の実施者には、研修目的の的確性、研修内容の妥当性、研修実施の有効性などについて事業評価を行い、研修を不断に見直し改善することが求められており、本アンケートはその一環として実施したものである。当センターでは、教育界の動向や本県の現状及び課題等を踏まえながら、本アンケートを通して掌握できた校長及び研修教員の意見や要望等を参考にして、本研修の一層の充実に努めて参りたいと考えている。併せて、本研修の成果及びアンケート結果の公表が、各学校における校内等の研修充実に役立つことを願っている。

そもそも教員研修のねらいは、研修の成果が教員自身の指導力向上に結びつくことだけでなく、教員の指導を介した児童生徒の望ましい変容にある。全ての教員は、今後ともこのことを十分自覚しつつ、自主研修も含めた各種の研修に積極的に取り組んでいただきたい。

終わりに、このたびのアンケートの実施にご協力をいただいた、関係各学校の校長先生並びに研修教員の先生をはじめ、各教育事務所、各市町村教育委員会に感謝を申し上げますとともに、引き続きご指導ご協力をお願い申し上げます。

3 「校長は、決定した研修計画に従って研修を実施し、本研修終了時に再度評価を行い、その結果を当該研修教員に説明し、今後の指導や研修に活用する。」（「教職10年目研修の手引」P4参照）ことになっています。A～Dの当てはまるものに○をつけ、校長として研修後評価をどのように活用したか、あるいは活用しようと考えているかについて、内に具体的にお書きください。

- A 十分に活用した   B ある程度活用した
C あまり活用しなかった   D 全く活用しなかった

4 教職10年目研修の実施によって、研修教員以外の教員に対して効果や影響がありましたか。A～Dの当てはまるものに○をつけ、内に具体的な内容をお書きください。

- A かなりあった   B ある程度あった
C あまりなかった   D 全くなかった

5 総合教育センター等における研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

研修教員用と併せて、市町村教育委員会へ送付してください。

3 総合教育センター等における研修のうち、職務を遂行する際に役立った研修について、以下のア～クの当てはまるものすべてに○をつけ、その理由を 内に具体的にお書きください。

ア 学習指導に関する研修

イ 児童・生徒指導に関する研修

ウ 学級経営に関する研修

エ 道徳教育に関する研修

オ 社会体験等研修

カ 異校種体験

キ 選択研修

ク その他 ( )

4 総合教育センター等における研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。

5 教職10年目研修で得られた成果や課題をもとに、現在自主研修に取り組んでいるかについて、A～Dの当てはまるものに○をつけ、どのような自主研修を行っているかを 内に具体的にお書きください。

A 積極的に取り組んでいる

B ある程度取り組んでいる

C あまり取り組んでいない

D 取り組んでいない

ご協力ありがとうございました。7月22日（金）までに校長に提出してください。

教職10年目研修 (県立学校) 事後アンケート

平成17年7月までの研修教員の状況等をとらえて、次の1から5の質問にお答えください。

- 1 研修教員が研修終了後、研修の成果をその後の指導に生かしているかについて、ア～ウの項目のA～Dの当てはまるものに○をつけ、内に具体的な内容をお書きください。なお、ア～ウの項目以外のことについては、エの欄にお書きください。

- A かなり生かしている   B ある程度生かしている
C あまり生かしていない   D 全く生かしていない

ア 学習指導力の向上   (A   B   C   D)

イ 児童・生徒指導力の向上   (A   B   C   D)

ウ ホームルーム・学級経営力の向上   (A   B   C   D)

エ その他

- 2 平成16年度の校内研修では、どのような研修が有効でしたか。

3 「校長は、決定した研修計画に従って研修を実施し、本研修終了時に再度評価を行い、その結果を当該研修教員に説明し、今後の指導や研修に活用する。」（「教職10年目研修の手引」P5参照）ことになっています。A～Dの当てはまるものに○をつけ、校長として研修後評価をどのように活用したか、あるいは活用しようと考えているかについて、 内に具体的にお書きください。

- A 十分に活用した   B ある程度活用した
C あまり活用しなかった   D 全く活用しなかった

4 教職10年目研修の実施によって、研修教員以外の教員に対して効果や影響がありましたか。A～Dの当てはまるものに○をつけ、 内に具体的な内容をお書きください。

- A かなりあった   B ある程度あった
C あまりなかった   D 全くなかった

5 総合教育センター等における研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。

ご協力ありがとうございました。

研修教員用と併せて、総合教育センター研修部へ送付してください。

教職10年目研修（県立学校）事後アンケート

研修終了から現在までをふりかえって、次の1から5の質問にお答えください。

1 研修終了後、研修の成果をその後の指導に生かしているかについて、ア～ウの項目のA～Dの当てはまるものに○をつけ、 内に具体的な内容をお書きください。なお、ア～ウの項目以外のことについては、エの欄にお書きください。

- A かなり生かしている   B ある程度生かしている
C あまり生かしていない   D 全く生かしていない

ア 学習指導力の向上   (A   B   C   D)

イ 児童・生徒指導力の向上   (A   B   C   D)

ウ ホームルーム・学級経営力の向上   (A   B   C   D)

エ その他

2 平成16年度の校内研修では、どのような研修が役に立ちましたか。

3 総合教育センター等における研修のうち、職務を遂行する際に役立った研修について、以下のア～キの当てはまるものすべてに○をつけ、その理由を 内に具体的にお書きください。

ア 学習指導に関する研修

イ 児童・生徒指導に関する研修

ウ 学級経営に関する研修

エ 社会体験等研修

オ 異校種体験

カ 選択研修

キ その他 ( )

4 総合教育センター等における研修で、取り入れてほしい内容等があればお書きください。

5 教職10年目研修で得られた成果や課題をもとに、現在自主研修に取り組んでいるかについて、A～Dの当てはまるものに○をつけ、どのような自主研修を行っているかを 内に具体的にお書きください。

A 積極的に取り組んでいる

B ある程度取り組んでいる

C あまり取り組んでいない

D 取り組んでいない

ご協力ありがとうございました。7月22日（金）までに校長に提出してください。

教員の資質・能力向上への取組み
～平成16年度教職10年目研修の事後アンケートの結果から～

発行 平成17年11月
栃木県総合教育センター研修部
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
TEL 028-665-7202 FAX 028-665-7218